



実りの秋シャラララ



行こう 国マガのある店

交流会レポート!!

8月6日、日の照る夏らしい暑さの昼時に国マガ初のファン交流会が開催。一体、どれだけの人が参加してくれるのだろうかと思もつけないままの開催となったが、結果としては会場のイタリアン・パッカスが一杯になるだけの人数が来てくれました。われわれ国マガのメンバーとファンのみならずでテーブルを囲み料理やお酒をいただきながら、それぞれに国マガへの思いを語らうとにもぎやかで充実した交流会。プロミュージシャンお二方によるサクセスとピアノの生演奏も花を添えてくれました。お越しくださったみなさん、本当にありがとうございました!

読者の方と膝を交えてお話す初めての試みでしたが、とても有意義な時間でした。自分たちの



ありがとうございました!
国マガ編集部
(左から、おぎぬまX、サリー志村、加藤ジュンスケ、安原マヒロ、オオキ)

作っているものを隅々まで読んで楽しんでくれる熱心なファンがいること。国マガを通してわれわれメンバーにも親しみを持ってもらえること。これからも国マガを発行していく上で、大切なことを知ることができました。また交流会を開いてくださいな」と嬉しいお言葉もいただき、これは簡単に国マガをやめることはできないなど、メンバー一同やる気に火を点けてもらった気持ちです。これからの国マガにご期待ください!

2017

9

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
					1	2
3 さわやか スポーツデー 奈良地区センター	4	5 移動図書館 はまかせ号 奈良山公園	6 交流サロン 奈良でちゃちゃ 奈良地区センター	7 手相入門 青葉台本の家	8	9
10 ゆめゆめ マーケット こどもの国	11	12	13	14 浜なして作る 焼き肉のタレ講座 奈良地区センター	15	16 足踏みうどん こどもの国
17 たんぼぼ フリーマーケット こどもの国	18 足踏みうどん こどもの国	19	20	21	22	23
24	25	26 認知症フォーラム 講演 青葉公会堂	27	28	29 共催コンサート ヴィヴァルディ 「四季」 フィリアホール	30 軽スポーツで 遊ぼう こどもの国

2017

10

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
1 チーズリゾット作り こどもの国	2	3	4 交流サロン 奈良でちゃちゃ 奈良地区センター	5	6	7
8 なわとび作り こどもの国	9 ピザ作り なわとび作り こどもの国	10 音楽のよろこび ジョイント コンサート フィリアホール	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20 ノルディック ウォーキング こどもの国	21
22 手形プレート 作り こどもの国	23	24	25	26	27	28
29 第4回 よこはまギター フェスティバル フィリアホール	30	31	11/1 次号国マガ 配付日			

9月と10月の予定

国マガの秋

まだ残暑が厳しいですが、秋のイベント情報が色々届いています。奈良地区センターでは交流サロン「奈良でちゃちゃ」を毎月第一水曜日の9時30分から開催中。100円で参加できますので、時間に余裕があるのに孤独を感じている方は参加して、秋の寂しさに備えてください。

初秋の青葉区と言ったら、やっぱり名産の浜なし。奈良地区センターではこの浜なしを使って焼肉のタレを作るというテーマの料理講座が9/14に開催されるそうです。地元の名産を使って自宅焼肉を極めたい参加希望の方は9/7までに返信用のしがきを持参

こどもの国では10/1にはダッチオープンでのリゾット作り、10/9にはドラム缶かまどでのピザ作りなど、イタリアン料理イベントを有料で実施(要HPよりメール予約)。秋のこどもの国は、澄んだ空の下で芝生に寝転んでいただけで、悟りが開ける感じがするので、今から楽しみです(安原)

国民の悩み

相談員 サリー志村

悩

いま、彼と遠距離恋愛中です。お互いの仕事もあって今すぐ一緒に住むという事は難しく、どうやらこの関係を続けられるか悩んでいます。(ゆっこ、30歳、ピアノ教師)

答

そんなに好きな彼氏がいるって素晴らしいことですよ。でも、大変ですね、遠距離恋愛。たとえば、そんな彼に手紙を書くのはどうでしょう。メールではなく手書きの。古典的ですが、結構効きます。まず書くことで高ぶる気持ちが少しすっきりします。そして手書きの手紙って存在感がすごくて読んでいると不思議と書いた人の声がかえり来ります。きつと、悪い女から彼を守る魔除けにもなります。がんばってください。

オオキが認定 今回の逸品

国マガ編集部 (国マガ)

交流会場に並べられた第1号から第44号までの国マガ。こう広げてみると、確かに4年間作り続けてきたのだなと実感が湧いてくる。よくこんなに作ったなと思うが、それはひとえに国マガを読んでくれる人がいたからである。手に取る読者がいたから続けられた。それは読んでいるあなたも国マガを作ってきたんだということ。この町に暮らす人々が育んだ国マガの芽。自信を持って今回の逸品に認定。





こどもが家に来る日は

こどもが家に来る日は

わけあって、いま、実家にもどってきている。両親と何年か振りに暮らしているのだ。両親の暮らしぶりは、オレが家にいたころとずいぶん変わっていた。食事は油ものを避け、野菜と魚中心。車の運転は腰が痛いといって、電車を利用するようになっていた。オレもいい歳なわけで、両親が歳をとるのは当たり前だが、夫婦そろって下り坂をそろそろと下っているのを実感している。

そして、これまでの生活と大きく変わったのは、今まで半年に1回しか会わなかった3歳の甥っ子に1カ月に1回は顔を合わせるようになったことだ。この甥っ子が家に来ると、どたどたどたとかましくすべての部屋をとりあえず見て周る。で、わたしの部屋まで来ると、うっへへ〜と、つぶれた小籠包みたいな顔で笑ってくる。彼は、彼の父がもう重いからとやらなくなった「たかいたかい」をやって欲しいわけなのである。オレとしても3歳児を持ち上げるのは結構力がいてツライのだが、1カ月に1度ぐらだからやってやることにしている。最近では、抱き上げ

られるだけでは満足しなくなったのか、身体をびぎやーと反らせて「おちる〜」とやりやがる。落ちるっておまえが勝手にやっただけだろ、と思いつつも、サービスして床に落ちる寸前の状態をキープしたりしてやるが、これがまたツライ。この「エクストリームたかいたかい」をひとしきり楽しんだあと、また部屋を出ていき、別な部屋で掃除機のスイッチのオン/オフを激しく繰り返したり、脚立に上ったり降ったりをしだす。きっと、甥っ子にとってオレは、そういったアトラクションのひとつなのだ。

それにも飽きると、今度は外で遊ぶと言い出す。すると、両親が甥っ子の手をひいて出て行くのだが、その両親の後ろ姿をみていて、少し若返っているような感じがあることに気が付いた。何だか足取りが軽やかなのだ。子どもって、大人を若返らせる不思議な力があるのだ。甥っ子が両親と外に出て行き、急に静かになった家で、オレはオレで「よっしゃ」なんて言って、勢いよくこのコラムを一気に書き上げたのだ。



小説

夕空の思い出

安原マヒロ

中学校最後の文化祭の出しものは演劇だった。演出だった俺は、準備のためにいつも最終下校時刻になるまで残っていた。俺だけではなく、役者、衣装、音響、皆残っていた。準備が始まった当初は、中学生特有の行事へのダルさを主張していた生徒たちも、非日常と一体感に取り込まれていった。夕方の教室の窓の外では、東から夜がやってきて、たなびく雲がゆっくりと橙色になる。厚木基地に帰投する米軍機が、キラキラと機体を輝かせながら、轟音を残す。何かが始まりそんな期待感が染まる高い空を突き抜けていく、そんな時間。これから、どこにも行けそうなきがしていった。

今、俺は喪服を着て歩いている。文化祭で脚本を務めた杉山の葬式からの帰り。三十二歳、居酒屋店長としての過労の末に自殺、両親は訴訟の準備をしているそう。あの夕空を一緒に過ごした男の生涯が幕を閉じた。杉山も、激務の合間に今日のような夕暮れを見て、あの頃を思い出したのだろうか。

かくいう俺も、前職の激務で身体を壊してクビになった。同棲していた彼女とも別れ、今は実家に戻り、毎日バイトのためにコンビニを往復している。

交通量の少ない脇道に入り、高校の頃に初めて酒を買って飲んだ自販機で、ビールを買って飲んでみると、車高を落としたり、巨大なリアウイングをつけた二十年以上前の国産スポーツカーが向かってきた。車は、俺の前で止まった。

「藤原じゃん、何してんの！でかおけたなおまえ！」

窓が開いて声をかけてきたのは中学の同級生の吉川だった。中学の頃と変わらない金髪に、髭をたくわえていた。授業を聞かず、学校をよくサボり、教師の悩みの種だった男。俺が杉山の葬式の話をする、吉川は急に深刻な表情になった。

「マジか。俺、今、社長やってるけど許せねえわそれ。働くやつがいなければ、自分も経営者じゃいられなくなるのよ。俺はこの愛車で週末に走るだけの金があればいいからさ、ガキ共ももう中学生だし、働いてくれる奴らに渡したいって思うけどな。人殺しだよそれ！」

しばらく話したのち、最後に吉川はこう言い去っていった。「そうそう、おまえと一緒のクラスでやった劇、すげえ楽しかったわ。こういう空の日、いつも思い出す。あ、俺の会社ならいつでも来ていいから、じゃー！」

高らかな音とともに去って行く、普段の素行に見合わぬ並外れた演技力で僕らの演劇を学内投票一位に押し上げた立役者。彼の車のテールランプの赤を、俺はいつそう暗くなり始めた空の下でいつまでも見送っていた。

加藤シュンスケ イラストレーター
日本に帰ってきました。さっそく国マガファンの方々にも会えて、帰ってきてよかったんだと安堵しました。国マガはこれから忙しくなりそうなきが...?

国マガ配布店

【こどもの国地区】

- GRIVE(コーヒー) ●こどもの国歯科(歯科) ●シュタットシンケンかくれが工房(ハム/ソーセージ) ●スリーエフ・こどもの国駅前店(コンビニ) ●なごみ(そば)
- 奈良地区センター ●炭火焼肉はち(焼肉) ●Bacchus(イタリアン&バー) ●MONT(パン) ●こどもの国のくすり屋さん(薬屋)

【奈良北地区】

- かつ元(とんかつ) ●Coonie(パン) ●昭和書房(本/文具) ●街の家族(コミュニティハウス)

【青葉台地区】

- KOGA(美容室) ●COPPET(パン) ●Soul Cocktail's AOBADAI(バー) ●246亭(ラーメン)

※配員数不足により一部店舗での配布を休止させていただきます。

次号は11月1日配布予定!!
こどもの国系情報誌「国マガ」Vol.45
発行日 2017年8月30日
発行人 加藤シュンスケ
デザイン ヨシムキ
連絡先 kunimaga920@gmail.com
※Facebookでバックナンバー配信中→
<https://www.facebook.com/kunimaga>

国マガ STAFF

サリー志村 業界誌編集
交流会後の上げで、おぎぬまは自分の本の売上を勘定し続け、ダブルリン加藤は時差のせいで眠りにつき、小説やすはらは「費用対効果が云々」と分析し、長男オオキは黙ってモンのパンを食べていました。



オオキ 長男
もう終わりなの?と、二時間ではまだまだ話足りない愉快な交流会でした。国マガフェイスブックに写真をアップしていますので、ぜひご覧になってください!



安原マヒロ ファッション誌編集
国マガ交流会で楽しかったのは、小説をちゃんと読んでもらっているのが確認できたこと。漫画に比べて地味なので不安でしたが、感謝です。今後も精進して参ります!



安原マヒロ



おぎぬまX ギャグマンガ家
国マガ交流会にお越しいただいた皆様、本当にありがとうございます! 夏休みの宿題に「おぎぬまX」を題材にしてくれたお子様が先生に怒られてないか心配です!



おぎぬまX



加藤シュンスケ アイルランド回顧録



※学校の先生に使おう

アイルランドの英語について。アイルランドの第一公用語はゲール語というところになっていますが、七百年もの間イギリスに支配されていたので、ごく一部の地域を除いて皆英語を話します。しかし英語は英語でも、アイルランドでしか使われない英語表現もあり、面白いので、使い勝手がいいものを紹介します。

「Feck(フエック)という言葉で日本語で「ちきしょー!」みたいな時に使います。ご存知、かの有名な四字言葉「ごの婉曲表現にあたりますが、Feckは本家本元よりキツさが4割ほどになり、性的意味合いも無いので、現地人は日常茶飯事にバンバン使います。あなたも明日からFeck Tシャツを着て感情を表現しよう。」

イラスト・柏木翔子